

予測雨量をダムの流入量や河川水位に変換することも可能です。

Pv-Doss (エクセルを用いたダム操作支援システム)



【システム概要】

エクセルを用いたダム操作支援システムです。洪水時の流入量予測を対象としています。予測モデルはAIまたは貯留関数です。

【実測データ、予測雨量データの取得】

実測データや予測雨量は、Previewを契約して頂くことで、簡単に取得することが可能です。すでに利用されている別のサービスの予測雨量を活用される場合は、そちらからデータを貼り付けて頂きます。

※Previewには含まれておりません。別途申し込みが必要です。

【主な機能】

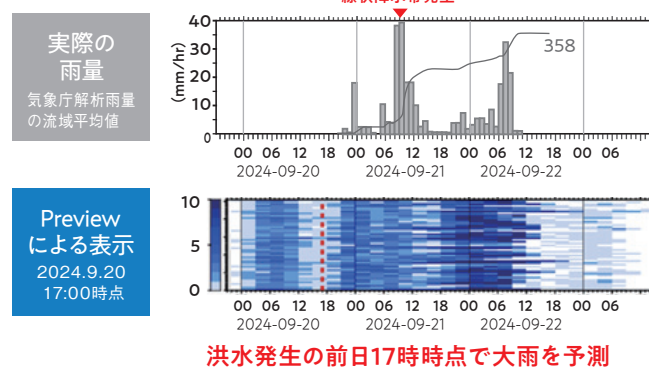
- 予測雨量を流入量予測に変換
- 実績値による補正
- 操作規則に基づく洪水調節、異常洪水時防災操作
- 事前放流の実施判断
- 各種帳票作成 (帳票はご利用中の帳票を提供頂いて、反映します)
- 貯留関数定数の見直し

その他、様々な分野への活用も可能です！



	用途の例
河川、ダムの 管理者向けの 使い方	- 洪水、治水の見通し把握や、洪水ステージに応じたシフト調整、行動判断、事前準備 - 降雨のステージに応じて予測情報を確認しながら、職員の行動等を判断 - ダムの事前放流の可能性を、いち早く把握 - 自分が休みの日の状況はどうなりそうか、の見通しの把握
分野別の活用 方法の例 (一例)	危機管理系
	防災系
	道路系
	農林系
	その他(工事、 防災行動等)

事例 令和6年能登半島豪雨 線状降水帯



※死者数出典: NHK NEWS WEB R6.12.17 住家被害出典: 令和6年奥能登豪雨による被害等の状況について R6.10.9 16時時点 (石川県危機管理監室)

令和6年能登半島豪雨では線状降水帯が発生し、死者数16名、住家被害414棟※に及ぶ甚大な被害が発生しました。一般的に線状降水帯の的中率は難しいと言われており、気象庁の予測雨量を表示しているPreviewも例外ではありません。

しかし、令和6年能登半島豪雨では、洪水が発生する前日9/20の17時時点の予測雨量は、夜から翌朝にかけて大雨が生じることを予測し始め、その後の予測も大きく変わることはありませんでした。日本の降雨予測技術は人命を救える力を秘めていると言えます。

お問い合わせ

日本工営株式会社 河川水資源事業部 河川計画部 または最寄りの営業担当まで
TEL: 03-3238-8046 <https://www.n-koei.co.jp/consulting/>



NIPPON KOEI

日本工営の河川技術で
もっと先まで、もっと簡単に

※本システムで使用している予測雨量は全て気象庁が提供しているものです。